

医療ルネサンス

No.5569

健診のすすめ

2/5

東京都新宿区で飲食店を営む杉浦勝成さん(48)が体調に異変を感じたのは昨年9月。便にレンガ色っぽいものが混じっていた。肉が消化されずに出ていたが、唐辛子を取り過ぎたのか。あまり深刻に考えなかつたが、唐辛子を控えても、同じ状況が一週間ほど続いた。

「詳しく調べた方がいいよ」。友人に勧められて、便に血が混じっていないかどうかを調べる大腸がんの検査を受けた。結果はやはり出血で、内視鏡検査を受けたところ大腸に二つのボリープが見つかり切除した。うち一つにがん細胞が見つかった。

区からは毎年、健康診断やがん検診の案内が届いていたが、「時間がなくて面倒くさい」と受けたことがなかった。体重が90kgあり、「メタボで健康指導を受け

るものも嫌だ」との思いもあつた。

がん検診の受診率は20~30%と低迷している。内閣府の世論調査では、受けない理由として「時間がない」(47・4%)、「がんとわかるのが怖い」(36・2%)という答えが多い。

杉浦さんのがんは早期だったが、診察した四谷メディカルキュー

便に出血 早期大腸がん

るのも嫌だ」との思いもあつた。

がん検診の受診率は20~

30%と低迷している。内閣

府の世論調査では、受けな

い理由として「時間がない

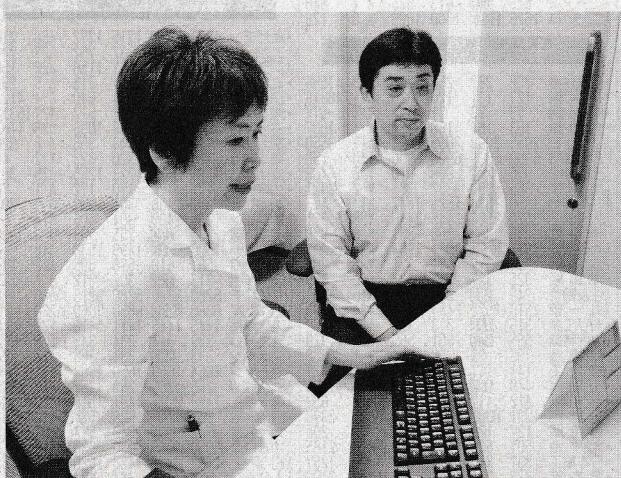
いる」と話している。

腸を10cmほど切除して調べたが、幸い、切除した部位やリンパ腺に転移はみられなかつた。

おなかに数か所の穴を開けて行う腹腔鏡手術だったこともあり、手術の1週間後には店を再開した。念のために再発がないか、半年ごとに検査を受ける。

大腸がんは、生活習慣の欧米化で患者数が増加している。「がんの死」数では肺、胃に次いで多い。

ただ、早期に発見すればほぼ100%治る。梅沢さんは「大腸がんは見つかつたら死ぬ」という病気ではない。また、たとえ転移があるとしても、様々な治療法がある」と話す。



医師の梅沢さんから病状について説明を聞く
杉浦さん(右、四谷メディカルキューで)

手術後、杉浦さんは店の常連客たちと病気の話をすることが増えた。「がんとわかるのが怖い」という声も相変わらず多いが、そんな時、杉浦さんは「検査で早期のがんが見つかって、自分の健康をよく考えるようになった。検査は大切だ